



門 堂
號 975
卷 9



本清

復雙言野路の玉川後篇卷之四

滄海堂主人編述

○ 駅路の奥宴

浦宿程は金剛力藏の年来尋の一畝の有家と知べき
便宜を得りて天の昇る心地の沖津浪電之助と
相談の頼と任せ母も伴ひ且亦手段の趣意のれり
八重を同胞と連ざり西川屋礼三郎は同く供せし男
兩人其餘八重が隣家の男都合九個づれを三津の





濱より三十石の夜舟より伏見まで登りし朝
 の東雲は伏見に着し夫より大亀谷越と大津の駅に出
 る午の刻限ありし茶屋町と名高き湖水や何某
 としる青楼より何きもて小落つたり斯て阪松
 屋の使乃男い映家とて若右工門か住家と聞よ駕仲間乃
 棒頭をれ直に分りて教へて映用向と達せんと彼所
 こころの心をなむ八重巻いりてより沖津浪は平段とて
 こころの心映使の男はゆくと随ひゆくは映処より二丁計りと



ついで駕と印せし行燈を表よりけし家河りしが使の男を
 らどとて案内せし内に入に幸ひ岩右衛門も家も有
 く委細の訳と詳し語つて岩右衛門が返事とて
 稍久し時とらぬ八重巻の先刻より其家の内と伺ひて
 暗よりその面を見るふ給りたるに越中の浮洲の岩右衛門
 あるは足むやまると退き湖水屋に歸りて龜之助と對ひ
 如快くと告るほど何事も妙よとて悦ぶ其限を
 坂松屋の使の男の一時間とて立ちて龜之助の使の男と對ひ

彼処の返更くわんのつりありくわんやと。さつねくわん体くわんて尋ねるくわん。この
 男おとこ何なに氣きさくくわん。岩い右みぎ工くわん門かどぶくわんのくわん返かへ事ことはな何なにもも五ご舌しつ直ちやくくくわんは
 浪なみ卷まきままのくわん何なに角かくのくわん礼れいとともも言いひひ述のべべぐくわんおおががくく女めははどどいいここと
 ころくわんれれよよだだるるにに用もちのくわん繁はげ々々れればば五ご六ろく日にちの間あひだおおそそままりりとと免めんままと
 くくももどどもも態たいとと佻てう言げんせせりりとと委あつくくかかららふふ龜かめ之の助すけのくわん打うち点てん頭づへへ
 心こころよよううろろととびび然しかももがが最も早はや女め方かたああもも別べつはは用もち車くるまもも侍さむらいねねべべ勝かつ
 手てはは浪なみ卷まきをを帰かへままよよととてて傭やうのくわん賃ちんととふふぶぶはは女め男おとこのくわん思おもひひががけ
 ららくく兩りゆう方かたよよてて賃ちんとと得えられればばととどどくく悦よろこびびおおののどどけけにに數かず回かい礼れい

ととのくわん別べつてて浪なみ卷まきよよううへへ寄よりりるる龜かめ之の助すけいいええどどめめううりり礼れい三さん郎らうとと浪
 卷なみまきのくわん豪かう家かのくわん且かつ那なはは仕し立た母ははのくわん佐さ代だいとと青あお楼ろうのくわん女め車くるまはは出
 ららせせ女め妓ぎ婦ふ兩りゆう人にんはは角かく力りき取とりりととめめつつはは伊い勢せい太たい宮みやうのくわん形かたち勢せい力りき
 のくわんててはは其その身みのくわん宰さい領りやう人にんのくわん風かぜ色いろをを湖こ水すい屋やにに伴ともひひ来きつつ其その日ひはは女
 卷なみまき街まちのくわん遊ゆう女め妓ぎ婦ふととよよびびよよせせ甚いた寛かん活かつはは酒しゆ宴えんととのくわん日ひはは翌あした日ひ
 東とう雲うんよりより出い立だせせんとと亭てい主しゆよよひひりりひひてて駕かのくわん車くるまおおどど談だんをを明あきらるる
 十じゅう四し日にちのくわん鐺たう倉くらよりより或ある御ご諸しよ侯こうのくわん國くにははかかへへせせああふふすすりりととせせりりをを
 龜かめ之の助すけもも礼れい三さん郎らうもも心こころ中ちゆうはは思おも慮りををめめぐぐしし貴き人にんのくわん通つう行かう在あるる

道々騒動あゝん、恐ま何り、忽ち遊び事せ翌二日、
 妙所は滞留し、尚も酒宴は戯ま、くすく趣向乃端手あり、
 浪をより持丸長者の大盡伊勢奉宮の様子あるが、
 昨日より昏續し、甚も寛活るる遊ひるり、所の噂とく、
 口がばく言つて、扱十五日のり、出立すべしとて、
 草津の駅やぐ駕やとふ、と亭主より、且那と始め、
 二人の妓婦を車一人と角力取都合五人の人数あり、其余、
 供の男いづれも脚の達者なれば、馬駕の用意に入ら

去あぐ、こま、よひ、妓婦の内、且那の心は、叶ひ、者三人、
 ひ、草津まで見送る、と願へ、且那も、こまを、
 約束と、八挺の駕あり、心も、駕の、
 賃銭の何程も、苦しく、只、町、徒の、と、撰、て、
 昇せ、其上、遊所の者、数多、道中、
 ま、雲助、の、彼、是、と、物、言、う、ひ、ん、も、甚、倦、さ、る、れ、バ、八、挺、の、
 昇、夫、の、外、は、棒、頭、と、う、言、べ、し、人、と、彼、所、ま、で、送、り、せ、ぬ、我、の、
 據、う、と、用、の、り、と、少、く、先、へ、趣、け、バ、妙、所、の、心、を、労、せ、り、又、草

津より向ふそ我又皆引とく道中をせば此もくろく
 思ひはまがの間のまうれは宜計ひむつととく
 言ふむむら亭主いひひ兼引其まより勞しむふこと
 ありを此花街の棒頭越中の岩とやけりの宜良役とて
 づまは是と附て送せやさんと答ふふ龜之助は笑壺入り
 夫こそ一へうもく何分宜頼とぶと聞かぬ亭主
 是より駕仲間言つらり八挺の駕と仕立させ草津迄の
 見送りとて別は岩右工門に附てい行とて言つとて

岩右工門も昨日あり評判高と大尽るれば定めく酒手の
 心附もむらと何と亭主の詞もあつて其手
 くぐりとぞあはなる

○古跡乃仇討

既六月十五日西川屋禮三郎の東雲より起出つ出立の
 用意と促せり八重巻同胞ととめ力藏親子も支度とて
 の荷物より引萬端と心とつけ彼よ是より取集め漸
 調ふ折り八挺の駕打そひ跡よりつとて岩右工門も



まのる様子と聞へしうへ亀之助ハ坊所はゆくとハ山右五門ハ面
 と見まもバ若けどくまゝハ首尾何〜と坊家の主ハ別れと
 告ぐ衆ハ先ヅら坊所と退出る斯く程ゆく山右五門ハ小
 弁慶トまけ帷子ハ黒々羅背板の帯ト〜ハ真鍮づく〜の
 刺口ハ黒々総の付らと腰ハ横々出来て駕の者又言つハ
 お客が〜と大切ハ取つらゆせ稍て駕ハ乗らゆ〜せ所の妓婦
 三人もひ〜く駕またすけのせ〜御立〜つ〜八挺〜も
 くと上る駕の辺ハ湖水屋の各車仲居ハ附〜して町〜

まで見送つ又の光駕と願ひワ別れてこそい〜
 されハ八挺の駕と〜供人二個ハ山右五門ハ宰領して膳
 所の町より栗津の松原とすハ勢田の長橋と〜坊ハ休
 らひ彼処ハ憩て漸く其日ハ己の刻の半ハ草津の駅ハ坊方
 なる野路の玉川ト〜至〜則ち坊所ハ日本六ツの玉川ハ
 其〜と〜野路の玉川ハ秋〜色〜波〜月
 や〜と〜俊頼朝臣の詠〜名所〜今ハ僅の流と
 あ〜と〜標の石と立〜傍ハ尚〜の面影の〜

の枝生えだのひけりて玉川の跡あとゆくもまのどまぬ力藏ちからざうのこの
 の内このうちより妖まじの名なや河かの古跡こせきなればあづく駕かとあらし
 且かつ那なやも袂たもとけしと御覽ごらん河かをよと言いすふ人足ひとあしども心得こころえて八挺やっぺんも
 のごさうが駕かななくよと言いすふ人足ひとあしども心得こころえて八挺やっぺんも
 二ふた杖つゑ起たへるくそとそ休やすらひる力藏ちからざうの駕かの内うちよりあどそ
 出いで身みがまゝあれし待まちりあひらる龜かめ之の助すけ一村いっぺん志しる夏秋なつあきの
 茂しげの本もとより頭あたまをいづく力藏ちからざうと両方りやうほうより岩右いわみぎ門かどと中ちゆうは
 ともとも珍めづしや浮洲うきしづの岩右いわみぎ門かどよも悪事あくじとば忘わすれさせぬ

我われこそい五ヶ年ごねん已い前まへ洛西らくせいはわしく侏ちゆうググめ五命ごめいとらんあく
 落おせし環山わんざん力右ちからみぎ門かどが門弟かどてい沖津浪おきつなみ龜かめ之の助すけあり夫それるる
 若者わかしよこそ力右ちからみぎ門かどが子こ金剛こんがう力藏ちからざう同どうく母ははの佐代さよるるそ
 いざ尋常じんじやうは勝負しやうぶと呔うたいせよ任心にんしんみくと詰つめるる岩右いわみぎ門かどの
 思おもひもさうだ妖計まじけい策さくは落入おちいりなれば胸中むねちゆうはまろく駭おそれと
 ども原来もとより強氣きやうきの曲者まげものなれば然しかども臆おそせし景色けしきと見みせす
 りしと打うちりし実まじ志しるる侏ちゆうホホが心こころざし斯しかるる上うへハ何なに
 ちつちん恠おそれも重おもるる遺恨いこんふす門かどと力右ちからみぎ門かどと殺害せつがいせ

浮洲の山右工門の五口もどぞ飛で火よ入夏のひ不便おき
 どもくを討ど覚悟ひろげと腰る刺口ぬく手も刃せに
 斬りくる心得とると金剛力藏技合せと丁こつ上段
 下段は斬結ぶ電光石火のたぐひは鋒沖津浪の後辺
 ひく危ふき場所とすくんと強唾とのんぐ待りけとと。
 数多は轎夫ホ肝とけし眼前は頭分の難義とへおひへ
 ども是往來の喧嘩はあつて父の敵の仇討るればいへ
 加勢の仕とせせば怒るる夏目は會りやせん且の後辺

ひくへる沖津浪が勢ひは現心とて寄つく者も何方
 ともく逃さるるを三人の妓婦ホも思ひけけるは杖場の
 爲躰は魂さるる身よそりびこつ轉ひつ連立て元來
 道と逃ゆさねさるはどお岩右工門の勢ひ猛く撃合ども
 力藏が孝心の鋒まどる大くして漸くまつけこすれ数
 所の深手とけけいふ今い幾ど勢ひつと後辺まどつと
 倒まらり得らりや良し目來の怨おひひあきと力藏を
 乗うつと報ひの刃地おも通まて突こんどり沖津浪もとく



こやうでござらうわれ
 ちやうとこらうとていも
 とががさけるさうさうのふ
 めらでいれいも
 あらゆる
 ません

礼三郎
 くさつのおやが
 ましと
 つゆゆのん
 あらゆる
 おのトヤ
 のッ



たのこれ余るはたさ
 八丁のこらう
 いとやあ
 むらう
 むらう
 むらう

玉川ハ
 モウヤ
 あらゆる
 ません
 のられ玉川で
 こらう
 まん



なす山
一子
こんぼう
あんのこたトやくこせん



いんもカ右正のやうつ
立のこ越中ハ岩右右
あひんされやうつ
かくこせん

カ右の女房さま
あひのうつ
くつこせん

こよこそ
ゆんこ
あひの
龜の女
うも
アハハハハ
せやの
あんこ
こよ
せん

里路の三川

又十

親も共^{とも}恨^{うらみ}の双^{ふた}とつと立^たくれ^り涙^{なみだ}れ^りひ^ひ白^{しろ}八^{はち}重^{じゆう}を同^{どう}
 胞^{ほう}礼^{らい}三^{さん}郎^{らう}も共^{とも}の^の扇^{あふぎ}とひろ^ろげ^げゆ^ゆを立^たくと^と悦^{よろこ}ひの^の
 眉^{まゆ}と^とひ^ひく^く水^{みづ}無^な月^{つき}や^や茶^{ちや}ず^ずと^と咲^さぬ^ぬ夏^{なつ}萩^{はぎ}も^も血^ち汐^{しほ}と^と波^{なみ}の^の
 色^{いろ}や^や名^なと^とく^くや^や玉^{たま}川^{がは}の^の月^{つき}乃^の光^{ひかり}れ^れ潔^{いさぎよ}と^と世^よの^のり^りぬ^ぬ
 ぐ^ぐり^りと^と成^なる^る目^め出^でと^とり^りなる^る変^かじ^じも^もる^るり^り

復^{くわん}讎^{くわん}言^{ごん}野^の路^ろの^の玉^{たま}川^{がは}後^ご篇^{へん}卷^{くわん}之^の四^し大^{だい}尾^び

和漢書籍賣捌處
 西洋

大阪心齋橋博勞町角

群玉堂河内屋 岡田茂兵衛

